

		和書門	
二	三	四	七
六	三	函	號
一	四	架	冊

庫文閣内		和書	
五	三	四	七
四	一	函	冊
一	八	架	冊

内閣文庫	
番號	和 23447
冊數	10 (6)
函號	154 359

共八

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



夕冬いほつてふりしあふ入て羽さきつる如く
此法をわてんことをおまへてあつひのさうてんを羽の
祢ふわつふさしと白紙おまへて色紙をとりを
あてうちをてと焼く茶ふのちをとり一糸金こ
まりふちを一人あふ一冊茶一とをいふるなるを
一紙子後右あふに合解よ包てと法をて下はと家
ちの個へて七世のいひ羽のうへ人乃きて
あふけさし一紙をせぬるをて時とふつて
一回羽さき茶一と一紙をせぬるをて胡丹おねと

まふ個へてあつひのさうてんを羽の
個へてあつひのさうてんを羽の
法をてあつひのさうてんを羽の
定解といふとさき茶一と
一回茶一と茶の事ちをとりと茶をとりと茶をとり
と茶をとりと茶をとりと茶をとり
一回茶の事一と紙を焼く茶をとりと茶をとり
うりの紙をとりと茶をとりと茶をとりと茶をとり
一回茶一と茶をとりと茶をとりと茶をとり

食ふ法として候し

一回羽をき此中を美しう製しやうと云ふは此種一
の肉を切入る竹の葉を毎風ふりて急げ候
一を此茶一を此茶一を此茶一湯柳を食ふ葉
しとゆて候し為まにわらへらるるをて羽の
控候と云ふて候し

一回茶の事候しやうありと云ふは茶種茶芽一
此葉を二つ折半と云ふかたの葉種一人志ん種
茶一も此茶大毎ふは出ると一茶小七小ふと

あり是しと云ふと云ふは茶種と云ふありと云ふ
多し是は多しと云ふは此茶の種は此物と云
ては茶の種もせし後の種も茶一茶は又包候
多しと云ふ葉小法と云ふと云ふは中しは云は
けて茶の性多しと云ふは茶の種は茶の種
ゆきと云ふは茶の種は茶の種は茶の種は
しと云ふは茶の種は茶の種は茶の種は
一回茶の種は茶の種は茶の種は茶の種は
ては茶の種は茶の種は茶の種は茶の種は

あそびの城ささく

一 日羽生の茶くらむ 井はさるあつたふいそくをさ
中しにその杯のふたうくるりてあそびのあつたふい
まききととりとまきくはくくりて自然とる形りき
てま自然のこひくま羽の杯なるまきとるまき
ふを何へく入るはまきまは自然のこひくま
木のむとせかしくまあそびまきとむゆりてま
ま入るくくまあそびとるまきくまきくまきくま
まきく羽生そんせまあり

一 日羽生の茶くらむの井くまのまはむそくま
あつたふいそくく羽とあつたふいそくま
あつたふいそくまはゆりてあつたふいそくま
まきとるまきとるまきとるまきとるまきとるま
まきとるまきとるまきとるまきとるまきとるま
まきとるまきとるまきとるまきとるまきとるま

一 日羽生は茶くらむのあつたふいそくま
あつたふいそくまはあつたふいそくま

一 日羽生は茶くらむのあつたふいそくま
あつたふいそくまはあつたふいそくま

夜ぞきさへ酒けを結を判しとけけりしは志てこ
あしとありし方二方と又三方と也例へし

一回羽の葉一むの白とゆてこに志てりしを
回つるきと上病有是は本とともは羽あつる形り
葉ふし一葉も毛馬の羽一白物おはに合て例へし
い所一毛の白とゆてこに志てりしを

一回とみその葉一むの井一ちやうんせきれりし結を
しとともをたれ絲乃と進らるる亦ふけりし

一回羽の葉一むのい一はたあの子はれをきり
葉一ち志をりたあつしと志てけりし

一回羽の葉一むのいよむを塩城合てりし
そのこの左志乃そののきをわりた葉は合てりし
あしとありし方二方と又三方と也例へし

一回羽の葉一むの葉の白とゆて一ふ葉はあまらるる
に合て羽のきとよりてさすし

一回と申葉一むの白とゆて一むの葉一あつ子はれを
あつ子はれの右志に合てりしはれをさしはるるをけり
て枝を本はれはるるはるるをけりし

くそはる羽ふゆひ法をまて方をしていそ強きりくまを
ねき又茶法をくまにに在茶を合入又方をもく
ら地を

一 ぬり社尾羽こころを七折る事と茶ふ二阿けむの法
ふ一りらのまうそふを焼阿けは志を葉一くまを
く尾羽をゆてを

一 同尾羽とまらたるを物を茶一ふり社阿けさるるを
とり茶焼ふ志てふは志を乞を付く

一 同尾羽の茶そのまらるるを

今志ん一茶葉一志ふいぬのく 難れぬの此さ進たあ後
黒焼ふ志て何とふ志くいぬを茶法は志を
く大餅く志と阿葉く

一 葉茶ふ一枚の茶一葉木一石志中一乞と葉志て相
く志てゆてをくくまを余のたを法をま
けらつ法をまをさるる中一にま

一 同まふたるるるを法と茶一人志ん一茶葉一葉の
黒焼一回志何とふ志てまを合餅ふ大志を
包ふく志くくいぬを

又まきしをたれ此中をわくせわくせわすへー白あて
りしゆをせりすいぬまきむじあり

一ぬりたをせりてせわいそ又後らわらるぬりまきし
りしゆ人のちをぬりまきし

一ちりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
一ちりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
こふあそあまに合つたはく包法くまき九包一ぬりまき
まきまきしちりまきまきまきまきまきまきまきまき

一ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
に合まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
てぬりまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
又中らる石炭焼くまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

一ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき
ぬりまきの業社奉一た抄のこまきひ一ちりまきしにまき

くちろくめが針法をくそく二火法をきくまじりて
疝疔痛付く

一回とけ又まじりてくそく茶一巾のさくは焼一人走一
お新一草茶一茶金のまじりての桂心おまに合同し
一とつてのまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
能まじりて茶をく法をまじり

一あまれの茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
きくまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
一右城焼くまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて

毎とくまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて

一別とくは茶茶たる茶一人走一草茶一とくは焼一人走一の茶
を黒焼にまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
ふいませく茶の積よまて何とくまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
て何とくまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
一負の目おねらる茶いねのまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
まじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
一足氣の茶一とくまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて
一又おにりまじりての茶一とくまじりての茶一とくは焼一とくまのさくは焼ふとて

一 豆と豆茶一はとこの豆焼又同茶の志るよをこ
いとゆらあそ合をほくろく又瓜をたおけらるふいそく
律の豆焼と合を焼のきと付く
一 同茶一はと先とくを焼し志る付まうん付く
あつめとくを記するの事

一 同茶一はと志の糸と豆焼に志て牛乳とを豆焼
志て結とくと記合ははき

一 同茶一はとみまをくを茶焼とり合はあ
一 同茶一はと豆あらとほくらと事とを焼またくは又

豆の志るよを記するの事
てたをくくはけあらとすはす糸の志るよを付
志て結とくと記合ははき
志て結とくと記合ははき

一 豆と豆茶一はと豆茶と付く
あつめとくを記するの事

一 同茶一はと瓜と豆茶と付く
あつめとくを記するの事

一 瓜と豆茶と付く
あつめとくを記するの事

はらう七法茶あり

一 茶葉の粗選たる茶一茶も茶葉はこしふるはれこし白
抽くところの蒸焼一本葉を先を多分合てたるゆかりい
し入るるを茶あらしと稱しゆり合へるるをくろく又やう
くふるはれこしを茶あらしと稱しゆり合へるるをくろく又やう
粗選あらしは城山柳のうらうとゆへる中しはまうと
まことは何れも茶あらしはまうとゆへる中しはまうと
ゆへる中しはまうとゆへる中しはまうと

一 ちまの茶あらしは城山柳のうらうとゆへる中しはまうと
蒸焼小茶く粗選一本法茶あり

一 瓜茶葉あらし茶あらし一本の茶あらしと茶葉たる茶あらし
小茶あらしと茶あらしと

一 真北目の茶葉茶あらしと茶あらしと茶あらしと
てくろくの目の茶あらしと茶あらしと茶あらしと
くろくとくろくとくろくとくろくとくろくとくろくと
まことあらしと茶あらしと

一 茶葉を粗選たる茶あらしと茶あらしと茶あらしと
一 茶の目茶葉中の茶あらしと茶あらしと茶あらしと

一回茶一盃をさうしぬをうすしあつてとてお茶を付し

一回茶一盃のあつて一盃も茶を付し合付きと城をとりて

ちりあつてひとほろくしぬをさうしぬをあてし
は里をさうきとあけしぬをさうきしぬ

一回茶一盃を茶一盃のあつてひとほろくしぬを

茶を右のあつてひとほろくしぬをさうきしぬを
さうあつてひとほろくしぬをさうきしぬを

一回茶一盃のあつてひとほろくしぬを茶一盃を

茶をさうきしぬを茶一盃のあつてひとほろくしぬを

一回茶一盃を茶一盃のあつてひとほろくしぬを

茶をさうきしぬを茶一盃のあつてひとほろくしぬを

一回茶一盃を茶一盃のあつてひとほろくしぬを

茶をさうきしぬを茶一盃のあつてひとほろくしぬを

一回茶一盃を茶一盃のあつてひとほろくしぬを

茶をさうきしぬを茶一盃のあつてひとほろくしぬを

一回茶一盃を茶一盃のあつてひとほろくしぬを

一 奥北目のねらるる茶ごふの目北る破茶全北さきとて
先焼くやまめとさきとを茶うしつらひそ多す北
子破茶も焼くちく中へやまへ入るべし。いふも北さき
そさつと合さうきりてころん

一 是と北茶一色とら一合さ人茶一せり北茶一はの
さひ焼一牛北と先と茶焼一はつ北いねら
こをゆりゆを区し法茶もくまをゆりてころんてこ
しや北とくゆりてゆさ付を北く

一 ちるけり茶の事七片ち北むり一北さきとら茶の

茶ととりてけり一は茶一赤合一茶中一人のゆ
少く右何とさふ茶と法はのゆとさきとく入を北
ふさすいふさささゆと茶とて同て出茶いふと
まふゆをゆ一まふ茶あり北この茶一はら
の法さ先一火焼をゆ一ひまけ北さ北目の茶
は一茶と茶つり一はらゆりひらの法一火焼
まふ一茶あ一沉香一茶と一茶全とさふ茶とく
ちころり一とささゆと茶と茶は合を何く

一 同さあゆ茶北さく一茶と一の茶右茶を北

一回ちりすの葉一かゝりこゝろし此をばらの葉とて時
のちよちをむきまてこゝろて甘葉末ふふ合て匂へ
一回ちりすの葉一ちりす事一三葉一六葉二葉事一人を
二葉事一甘葉一葉一せんまゝ一葉事一白物中葉これ
こゝろ合てあよほまて匂へ
一回ちりすの葉一かゝり大あふふと鹿小たふふ二鹿は
せとせし一但あふふとせし
一回ちりす一せんたのまゝ一ちりす事一ちりすの葉一
あふふ一甘葉末右を合て匂へ

一回ちりすの葉一かゝりこゝろし此をばらの葉とて時
のちよちをむきまてこゝろて甘葉末ふふ合て匂へ
一回ちりすの葉一ちりす事一三葉一六葉二葉事一人を
二葉事一甘葉一葉一せんまゝ一葉事一白物中葉これ
こゝろ合てあよほまて匂へ
一回ちりすの葉一かゝり大あふふと鹿小たふふ二鹿は
せとせし一但あふふとせし
一回ちりす一せんたのまゝ一ちりす事一ちりすの葉一
あふふ一甘葉末右を合て匂へ
一回ちりすの葉一かゝりこゝろし此をばらの葉とて時
のちよちをむきまてこゝろて甘葉末ふふ合て匂へ
一回ちりすの葉一ちりす事一三葉一六葉二葉事一人を
二葉事一甘葉一葉一せんまゝ一葉事一白物中葉これ
こゝろ合てあよほまて匂へ
一回ちりすの葉一かゝり大あふふと鹿小たふふ二鹿は
せとせし一但あふふとせし
一回ちりす一せんたのまゝ一ちりす事一ちりすの葉一
あふふ一甘葉末右を合て匂へ

一回唐小自然にう積くる茶一人にんいふあてあふまきり
人のむじちと合え終とあしとまあるまきり

一回どけの茶一人あん一廿字一茶杯一茶一癖の如く

一赤金のまりたる一ちや香そのがまくと終とまきり

く烟へ

一ちむりの事一人あん一廿字一茶一癖の如く

一回むじちと合え終とあしとまあるまきり

合え烟へ

一回どけの茶一人あん一廿字一茶一癖の如く

一回むじちと合え終とあしとまあるまきり

合え烟へ

一回ちむりの事一人あん一廿字一茶一癖の如く

一回むじちと合え終とあしとまあるまきり

一回どけの茶一人あん一廿字一茶一癖の如く

一回赤金のまりたる一ちや香そのがまくと終とまきり

一回むじちと合え終とあしとまあるまきり

一回ちむりの事一人あん一廿字一茶一癖の如く

一回どけの茶一人あん一廿字一茶一癖の如く

一 毎斗さの健まりたふ茶一揚とを黒焼ふあてて
あふ一甘草を包と推まふに合切らうひのみうと
こつ汁を包く
一 ことらるとあてさうと打てらうとらうと茶とふあて甘
うきこつ汁を包てさらう包多うらうと茶
一 同茶とさうとらうの包つら茶とらてこけと茶金
のまららうとあては合て甘うきこつ汁はこを包く
一 同茶と茶は茶と黒やきとあてらうと茶と
ふに合て包く

一 同茶一とらうと茶金茶とらうとらうと茶と
はうと何とこは合て合て包く
一 同茶とらうと茶と茶と茶と茶と茶と茶と
茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
一 同茶とらうと茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
一 同茶とらうと茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
一 同茶とらうと茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
一 同茶とらうと茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と
茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と茶と

一回さしつけの葉を糸に結ぶ。葉の裏中を麻の角
のうらやきおろし。合意。何年。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

一回さしつけの葉の葉の裏中を糸に結ぶ。葉の
裏中を糸に結ぶ。葉の裏中を糸に結ぶ。

物〜くつよめをて三層はさきん〜夜をさくらさ
とをさう〜くたろる〜いあをばひ〜ふくをさう〜

一 回馬ぶびう〜と〜れるる美〜ら〜井書〜二天吉
第〜さ〜い〜人のあつと〜ます是〜あ〜ま
くぬ井と〜ら〜の井むち〜と〜さ〜い
す〜く〜お〜ま〜お〜ま〜お〜ま〜お〜ま〜
これあつた〜さ〜い〜き〜あ〜は〜あ〜だ〜て〜さ〜ら〜ん〜と〜う〜
多〜け〜魚〜く〜〜胸〜あ〜井〜ら〜け〜あ〜ら〜し〜う〜い〜う〜あ〜ま
〜ら〜り〜ま〜し〜る〜る〜さ〜と〜あ〜ま〜く〜胸〜く〜

一 回馬く〜と〜何事血球と〜井油よ〜ら〜こ〜ら〜ま〜て
心〜美〜と〜く〜あ〜ら〜〜但〜移〜つ〜ま〜井〜あ〜ら〜け〜白〜
〜す〜ま〜〜と〜お〜い〜ら〜は〜ら〜く〜は〜ま〜お〜ま〜ら〜ら〜れ
と〜水〜く〜何〜〜と〜ま〜い〜あ〜つ〜た〜横〜ふ〜〜ら〜〜人〜を
〜そ〜れ〜い〜る〜と〜ち〜の〜く〜ら〜り〜る〜ら〜り〜な〜と〜ま〜ら〜ら〜ら〜
書〜性〜と〜ら〜や〜〜い〜ま〜水〜と〜入〜る〜因〜志〜〜ら〜を〜は〜せ
〜ら〜る〜い〜ま〜〜け〜い〜ら〜ま〜ら〜む〜ら〜り〜と〜井〜病〜は〜ら〜ら
の〜〜い〜〜と〜〜ま〜と〜あ〜れ〜ま

一 回馬ら〜井の〜く〜〜の〜〜〜れ〜書〜ふ〜ま〜ら〜ら〜

茶漬同たつる者ぬすはぬき事大車こころん
まじ

一曰さふ茶と新茶の病ハ新つより物なるをいふ
さあら何西をあらはるゝ毎々一々あらるる
物さつとくまんと納又お茶未だあせとことい
何なり

一曰よとろ茶一りこいこいみ一茶毛のたこ
とて黒焼小志そ茶毛の白と終り合何なり

一曰らとろりの茶一権うれのぬき黒焼たつる
ら未ふに食ふ又せり毎々一り

一曰とけいさ茶とる車ゆと持下またふあを
とけとひよあつむらとけいあをまをとり
見ふ茶漬何なり一とあせりてりてりてり

一曰血をりたの茶毛のたつてり
ふそそのを茶とす中一は所と黒焼小志を何
又茶のの茶とりてりてり

一曰とろ茶一人と一甘茶か又せりうに百病
一と全茶あつてり全茶合一何

一 同きまゝにうらゝのねらくる紙はくうしよりを此書の
たるよまゝにしてせんせまを志すねらうらるるりぬむ
くまゝにそのいぢにち此書をかりとせねらうらるるる
のりてあまらうらりて

一 此書にあらはれゆくる業書の末此書にうらうら
る書とせりてせらるゝ

一 大まゝに一の事一は柳の糸一うらや此紙一何ふそと
け三種にけを終てあゝい葉一うらまをせり
はめりや此中ぬる附物とせらるゝ白て何とを此書

一 小まゝに此書にうらうらとせりてうらうら附終て何と
いそまゝにうらうらぬのとあまらうらとあまらうらと
うらうらと布とけりてうらうらと何とあま
白て何と

一 海に色はうらうら此書をうらうらとせら此白水と一
てうらうらてうらうらけりてあまらうらに合ふて何

一 今ゆふちんとせら病とせらるる何ぬまをせら後と
葉と一の木の末と一まゝに此書をせらとせらうら
何一何とせらうらうらあまらうらうらと何と

此のなき程あるを人の心にとりてまゝとて心
未だ厚く懐疑するをわが本にかりて落くを
さすく一ちうせきとてわく一

一尾まけのよふ志とあはれまてあうつじまて
小指の毛と病をそま一人ま一甘茶一りけは
ちやちやとまて何こふまそふ金にまりり
合わくを何く一葉茶ふこふまこく一
あまの指ふ合葉茶とてわく一

一わくちや海とまてわくちやわくちやわくちや
わくちやの毛と焼て付く一又あまの毛と
まてわくちやわくちやわくちやわくちや
わくちや



